

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年2月8日

【四半期会計期間】 第69期第3四半期(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)

【会社名】 エムティジェネックス株式会社

【英訳名】 MT GENEX CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鈴木 均

【本店の所在の場所】 東京都港区麻布台二丁目4番5号

【電話番号】 03-5405-4011(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 長野幸司

【最寄りの連絡場所】 東京都港区麻布台二丁目4番5号

【電話番号】 03-5405-4011(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 長野幸司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦表示から西暦表示に変更しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期 第3四半期 連結累計期間	第69期 第3四半期 連結累計期間	第68期
会計期間	自 2017年4月1日 至 2017年12月31日	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日
売上高 (千円)	1,677,097	1,700,043	2,235,444
経常利益 (千円)	205,729	205,217	264,538
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	139,576	139,459	174,967
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	140,404	138,925	175,222
純資産額 (千円)	2,619,933	2,743,373	2,654,691
総資産額 (千円)	3,032,577	3,128,697	3,339,230
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	129.58	129.50	162.43
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	86.4	87.7	79.5

回次	第68期 第3四半期 連結会計期間	第69期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2017年10月1日 至 2017年12月31日	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	37.19	29.01

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 2017年10月1日付けで普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第68期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。
5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の指標等になっております

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に堅調に推移致しましたが、米中貿易摩擦などに起因する海外経済の下振れリスクや相次ぐ自然災害の影響、消費税率引き上げを控えた消費動向など、景気の先行きに関して不透明な状況が続いております。

オフィスマーケットにつきましては、企業の拡張需要が依然堅調であり、空室率は低水準を維持する一方、2020年にかけて大規模オフィスビルの大量供給が予定されていることから、今後需給関係の変化に留意する必要があります。建設業界におきましては、建設技能労働者不足による労務費上昇や資材費上昇による収益率の低下が懸念される事業環境が続いております。

このような状況下、当社グループは引き続き中長期的な視点に立ち、事業規模の拡大、新規顧客獲得のための営業強化ならびにM & Aの案件調査に注力してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高1,700,043千円（前年同期比22,945千円増）、営業利益195,835千円（同1,358千円減）、経常利益205,217千円（同512千円減）、親会社株主に帰属する四半期純利益139,459千円（同117千円減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間		前第3四半期連結累計期間		増減	
	売上高 (千円)	営業利益 (千円)	売上高 (千円)	営業利益 (千円)	売上高 (千円)	営業利益 (千円)
リニューアル	412,809	32,448	525,597	57,618	112,787	25,170
駐車場	900,266	122,034	768,415	94,548	+131,850	+27,486
住宅・ビル管理	343,080	16,832	339,707	20,598	+3,373	3,765
保険代理	43,886	24,520	43,376	24,429	+509	+91
合計	1,700,043	195,835	1,677,097	197,194	+22,945	1,358

リニューアル

サイン工事等が縮小した結果、前年同期に対し減収減益となりました。

駐車場

前年度下半期にオープンいたしました駐車場5ヶ所の収益が寄与し、前年同期に対し増収増益となりました。

住宅・ビル管理

トイレトーパー等の衛生消耗品の販路が拡大した結果、前年同期に対し増収となりましたが、管理費が増加したため減益となりました。

保険代理

火災保険、地震保険、工事保険のいずれも順調に推移した結果、前年同期に対し増収増益となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ210,533千円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が91,855千円減少、完成工事未収入金が98,869千円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ299,214千円減少いたしました。主な要因は、保険代理業務等における預り金が230,339千円減少、工事未払金が67,631千円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ88,681千円増加いたしました。これは主に剰余金の配当43,082千円、親会社株主に帰属する四半期純利益139,459千円を計上したことによるものであります。

以上の結果、総資産は3,128,697千円、負債合計は385,324千円、純資産合計は2,743,373千円、自己資本比率は87.7%、1株当たり純資産額は2,547円92銭となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において当社が対処すべき事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい増減はありません。

(7) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変動はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,000,000
計	3,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2018年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年2月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,079,600	1,079,600	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	1,079,600	1,079,600		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2018年10月1日～ 2018年12月31日		1,079,600		1,072,060		

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2018年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2018年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,072,600	10,726	
単元未満株式	普通株式 4,300		
発行済株式総数	1,079,600		
総株主の議決権		10,726	

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、すべて当社保有の自己株式であります。
2. 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が900株(議決権9個)含まれております。

【自己株式等】

2018年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
エムティジェネックス株式会社	東京都港区麻布台二丁目 4番5号	2,700		2,700	0.25
計		2,700		2,700	0.25

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)及び「建設業法施行規則」(1949年建設省令第14号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2018年10月1日から2018年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,080,196	988,340
受取手形及び売掛金	52,195	48,431
完成工事未収入金	124,845	25,975
貯蔵品	2,089	541
未成工事支出金	-	151
関係会社短期貸付金	1,850,000	1,850,000
その他	66,875	69,829
流動資産合計	3,176,201	2,983,270
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	16,434	16,434
減価償却累計額	8,711	9,710
建物及び構築物(純額)	7,722	6,723
機械装置及び運搬具	1,257	1,257
減価償却累計額	1,257	1,257
機械装置及び運搬具(純額)	0	0
土地	22,048	22,048
その他	51,871	53,581
減価償却累計額	35,266	41,457
その他(純額)	16,605	12,124
有形固定資産合計	46,376	40,896
無形固定資産		
その他	5,642	4,522
無形固定資産合計	5,642	4,522
投資その他の資産		
投資有価証券	8,572	7,804
敷金及び保証金	58,493	58,573
繰延税金資産	40,721	30,408
その他	13,951	3,223
貸倒引当金	10,728	-
投資その他の資産合計	111,010	100,008
固定資産合計	163,029	145,427
資産合計	3,339,230	3,128,697

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,471	62,530
工事未払金	88,054	20,423
未払法人税等	44,713	19,903
前受金	49,697	61,445
預り金	284,300	53,960
賞与引当金	13,583	6,844
資産除去債務	13,375	13,375
その他	28,553	34,436
流動負債合計	581,749	272,920
固定負債		
長期預り敷金	82,084	87,863
退職給付に係る負債	20,705	24,540
固定負債合計	102,789	112,403
負債合計	684,539	385,324
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,072,060	1,072,060
利益剰余金	1,583,749	1,680,125
自己株式	3,641	10,803
株主資本合計	2,652,167	2,741,382
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,524	1,991
その他の包括利益累計額合計	2,524	1,991
純資産合計	2,654,691	2,743,373
負債純資産合計	3,339,230	3,128,697

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)
売上高	1,677,097	1,700,043
売上原価	1,232,942	1,250,615
売上総利益	444,154	449,427
販売費及び一般管理費	246,960	253,591
営業利益	197,194	195,835
営業外収益		
受取利息	8,150	7,433
受取配当金	187	201
雑収入	197	1,747
営業外収益合計	8,535	9,381
経常利益	205,729	205,217
税金等調整前四半期純利益	205,729	205,217
法人税、住民税及び事業税	58,678	55,209
法人税等調整額	7,474	10,548
法人税等合計	66,153	65,758
四半期純利益	139,576	139,459
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	139,576	139,459

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)
四半期純利益	139,576	139,459
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	827	533
その他の包括利益合計	827	533
四半期包括利益	140,404	138,925
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	140,404	138,925
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
減価償却費	4,490 千円	8,309 千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年6月27日 定時株主総会	普通株式	43,091	4.00	2017年3月31日	2017年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	43,082	40.00	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	リニューアル	駐車場	住宅・ ビル管理	保険代理	計		
売上高							
外部顧客への売上高	525,597	768,415	339,707	43,376	1,677,097		1,677,097
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	525,597	768,415	339,707	43,376	1,677,097		1,677,097
セグメント利益	57,618	94,548	20,598	24,429	197,194		197,194

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	リニューアル	駐車場	住宅・ ビル管理	保険代理	計		
売上高							
外部顧客への売上高	412,809	900,266	343,080	43,886	1,700,043		1,700,043
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	412,809	900,266	343,080	43,886	1,700,043		1,700,043
セグメント利益	32,448	122,034	16,832	24,520	195,835		195,835

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
1株当たり四半期純利益	129円58銭	129円50銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	139,576	139,459
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	139,576	139,459
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,077	1,076

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 2017年10月1日付けで普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年2月6日

エムティジェネックス株式会社
取締役会 御中

清陽監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	野 中 信 男	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	中 市 俊 也	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエムティジェネックス株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2018年10月1日から2018年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エムティジェネックス株式会社及び連結子会社の2018年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。